

阿南安芸自動車道 ^の野^ね根^{あぐら}～安倉
状況報告

平成28年12月13日

目次

1. 四国の高速道路ネットワーク	…	3
2. 地域及び道路の現状と課題	…	6
3. これまでの検討経緯	…	11
4. 北川村小島地区の被災状況	…	14
5. 今後の方針	…	17

1. 四国の高速道路ネットワーク

1-1. 阿南安芸自動車道の概要

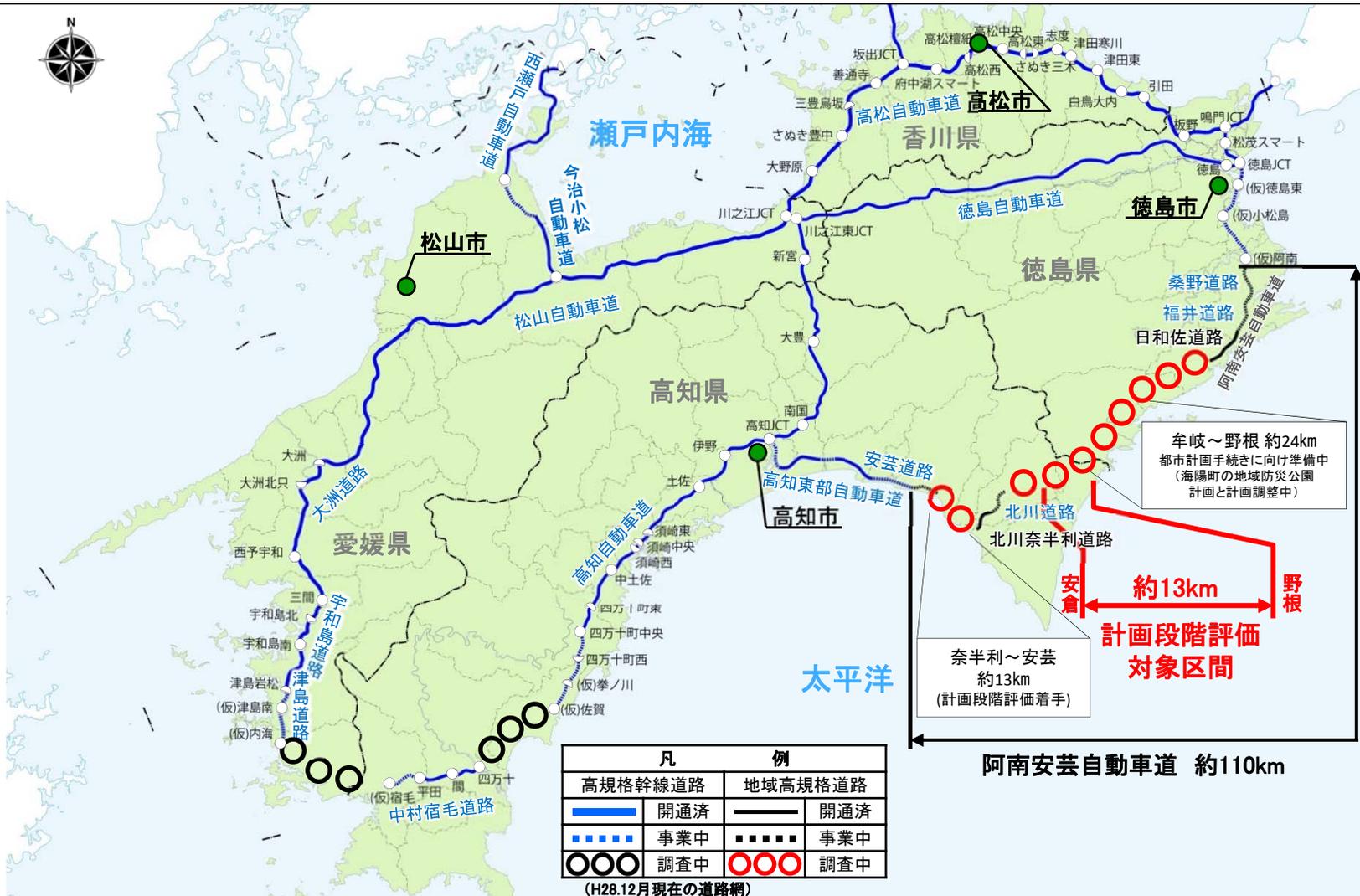
- 阿南安芸自動車道は、徳島県阿南市から高知県安芸市に至る地域高規格道路である。
- 四国横断自動車道、四国縦貫自動車道及び高知東部自動車道とともに、「四国8の字ネットワーク」を形成する。

▼四国の高速道路ネットワーク



1-2. 計画段階評価対象区間の周辺状況

- 野根～安倉間は、地域高規格道路である阿南安芸自動車道の一部であり、平成25年12月に計画段階評価着手。
- 阿南安芸自動車道は、現在、日和佐道路、北川奈半利道路が開通しており、桑野道路、福井道路、安芸道路及び北川道路の一部が事業化されている。
- 牟岐～野根間は、平成27年4月に対応方針(概略ルート、構造等)を決定し、現在、都市計画手続きに向けて準備中。
- 奈半利～安芸間は、平成28年12月に計画段階評価着手。



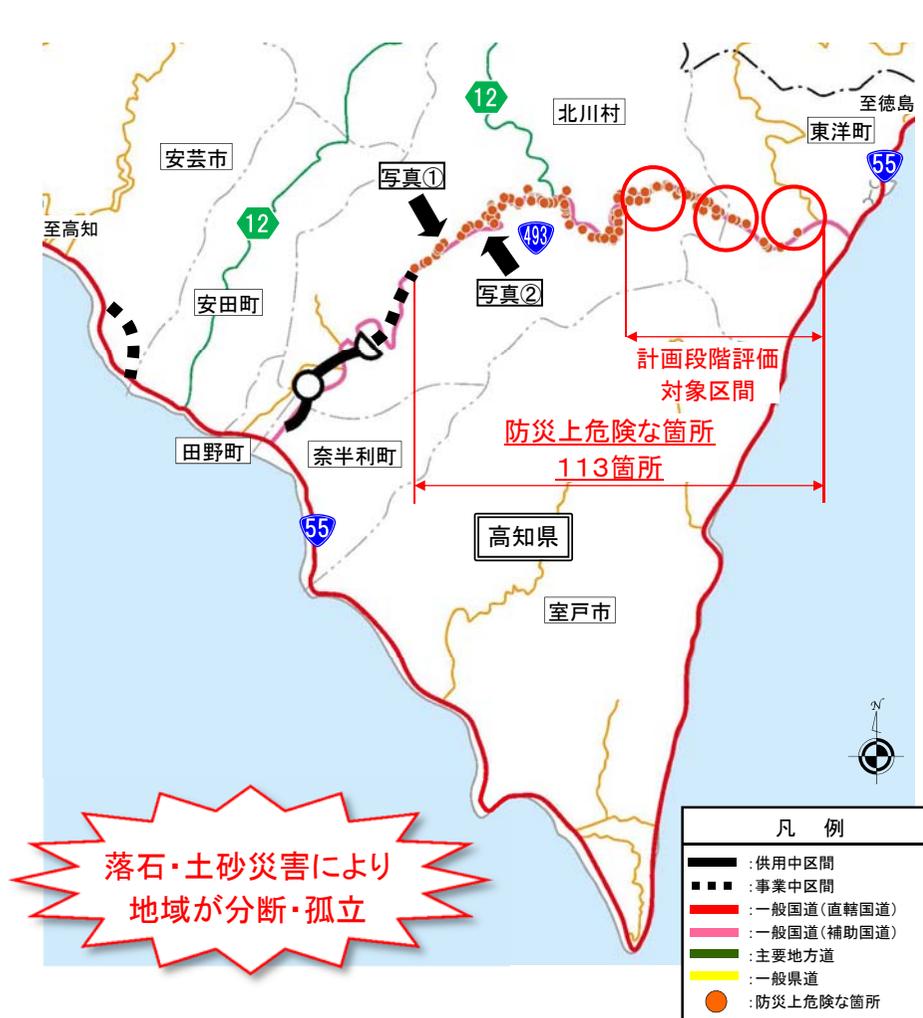
2. 地域及び道路の現状と課題

2-1. 地域の現状と課題(地震)

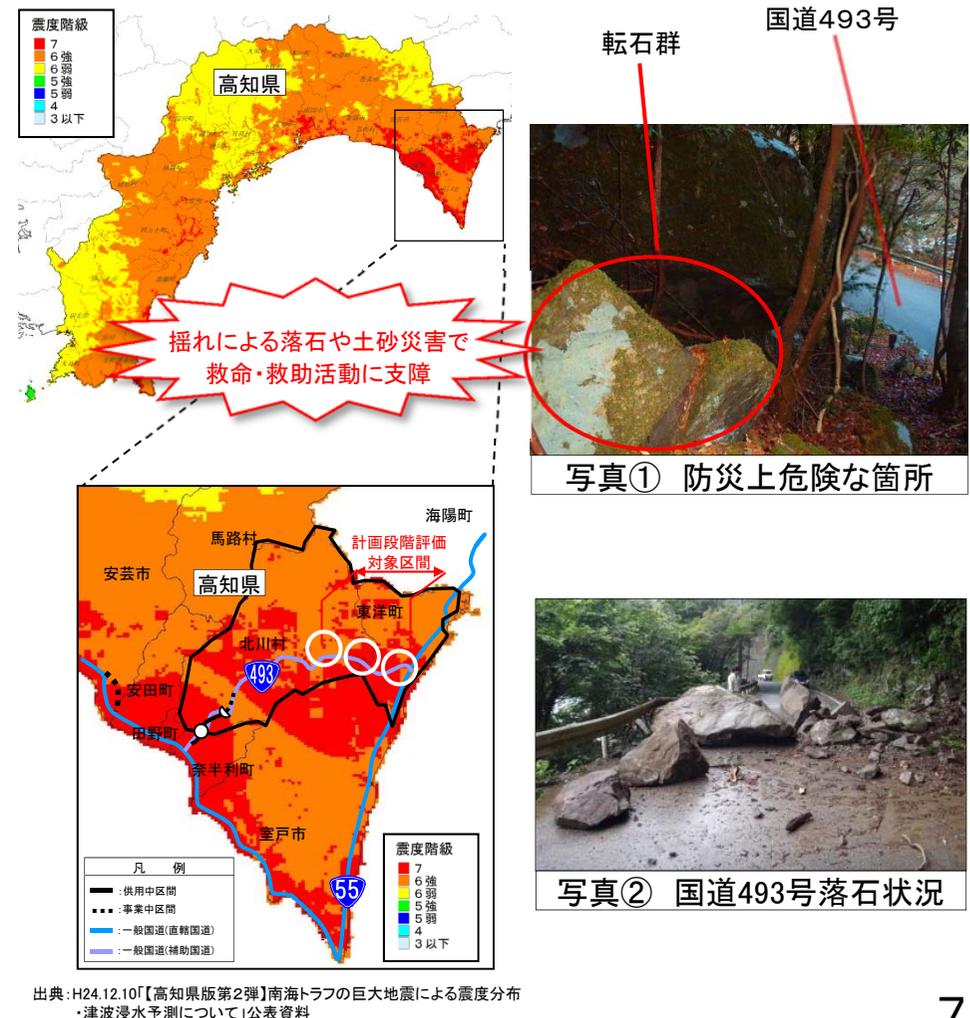
現状
・
課題

- 国道493号の東洋町と北川村の間は、防災上危険な箇所が多数存在し、頻繁に落石が発生している。
- 南海トラフ巨大地震では震度7が予測されており、揺れによる落石や土砂災害により地域が分断・孤立し、迅速な救命・救助活動ができない。

▼国道493号の防災上危険な箇所



▼東洋町・北川村は震度7

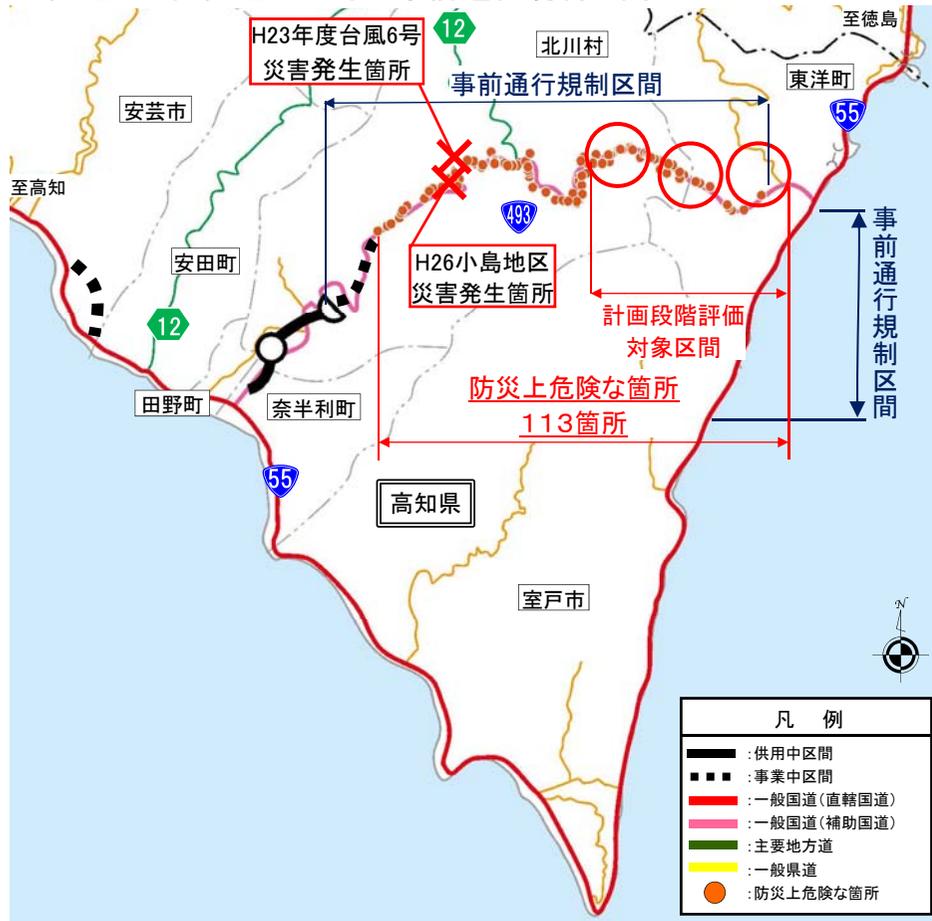


2-2. 地域の現状と課題(豪雨・事前通行規制)

現状
・
課題

- 平成23年度の台風6号では路面崩落により道路が寸断され、約3ヶ月間の通行止めが発生。当該地域は非常に脆弱な地質であり、同様な災害が発生する可能性が高い。
- 豪雨による事前通行規制が頻繁に発生し、落石も日常的に発生(1日平均約2.6件)するなど、常に地域住民や道路利用者は危険にさらされている。

▼国道55号・国道493号の事前通行規制区間



・国道493号はいつ落石に襲われるかわからない、まるで「ロシアブルーレット」のような道。安心して通れる道路がほしい。(北川村女性)

▼平成23年度の台風6号による災害発生状況



国道493号被災状況

H23.7.20~H23.10.22
約3ヶ月間の通行規制

▼国道493号の事前通行規制履歴



▼落石が日常的に発生

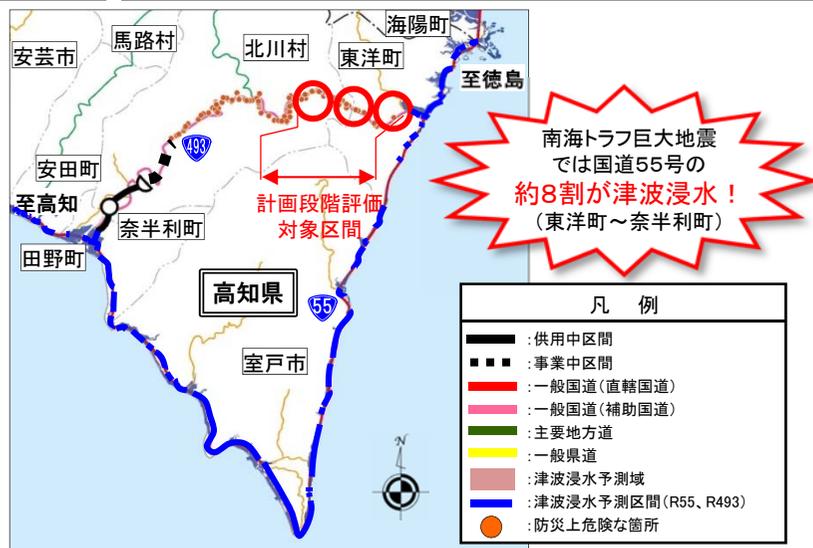
国道493号(和田~野根間)
3年間(H25~H27)に
約2,842件の落石発生
↓
1日平均約2.6件



2-3. 道路の現状と課題(地震)

現状
・
課題

- 国道55号が当該地域の唯一の幹線道路であるが、津波により約8割が浸水すると予測されている。
- 代替路となる国道493号も防災上危険な箇所が多数存在し、地震の揺れによる落石や土砂災害の可能性が大きい。
- 南海トラフ巨大地震発生時には、国道55号、国道493号が寸断され、迅速な救命・救助活動ができない。



▼国道493号(野根～安倉)の防災上危険な箇所

出典：津波浸水予測域及び津波浸水予測区間
H24.10「高知県版第2弾」
南海トラフの巨大地震による震度分布・津波浸水予測について」公表資料に基づき作成



※この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分1地形図を複製したものである。(承認番号 平28四複、第36号)

2-4. 道路の現状と課題(急カーブ・急勾配)

現状
・
課題

○国道493号の野根～安倉間は、幅員5.5m未満の幅員狭小箇所や急カーブ箇所・急勾配区間が多数あり、走行性が悪く、道路利用者にとって利用しにくい道路となっている。

▼野根～安倉間には、急カーブ箇所が107箇所、急勾配区間が約5.5km存在



写真①

<幅員狭小箇所>



写真②

<急カーブ箇所>



写真③

<急カーブ箇所>



※この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の42万5千分1地形図を複製したものである。(承認番号 平28四復、第36号)

3. これまでの検討経緯

3-1. 計画段階評価の検討経緯

【野根～安倉間】

【平成25年12月11日】

第1回 四国地方小委員会
【審議事項】
■計画段階評価手続きの 進め方（案）

1. 評価対象区間
2. 地域の現状と課題
3. 道路の現状と課題
4. 政策目標（案）
5. 意見聴取方法（案）



【平成26年 2月 3日
～平成26年 2月24】

地域への 意見聴取
【意見聴取内容】
○地域の課題 ○課題を解決するための道路の役割
◆聴取方法 〈ヒアリング〉 対象者：関係自治体、団体、道路利用者 〈アンケート〉 対象者：地域住民、企業、道路利用者



【平成26年 6月5日】

第2回 四国地方小委員会
【審議事項】
1. 前回の審議内容
2. 第1回意見聴取の結果
3. 対応方針（案）の検討
4. 第2回意見聴取方法（案）



【平成26年 9月24日
～平成26年10月22】

地域への 意見聴取
【意見聴取内容】
○ルート帯案 ○インターチェンジの設置位置
◆聴取方法 〈ヒアリング〉 対象者：関係自治体、団体、道路利用者 〈アンケート〉 対象者：地域住民、企業、道路利用者 〈説明会〉 対象者：地域住民



【未開催】

第3回 四国地方小委員会

現在
小島地区の災害を受けて、国道493号防災評価を実施中

北川村 小島地区の 崩壊発生



平成26年8月10日
台風11号の降雨により北川村小島地区で災害発生

平成26年12月
土木研究所による現地調査

平成27年 6月
被災後、豪雨を経験し、すべり面を推定。
大規模岩盤地滑りと判明

※災害復旧本申請に向けて協議中

3-2. 計画段階評価の検討経緯(ルート帯案の概要及び比較評価) 高知県 土木部 道路課



- 案① 区間延長を極力短くしたバイパス案
- 案② 現道改良案

出典：津波浸水予測域及び津波浸水予測区間 H24.10【高知県版第2弾】南海トラフの巨大地震による震度分布・津波浸水予測について「公表資料」に基づき作成

名勝・天然記念物、史跡等：高知県教育委員会資料 東洋町・北川村の教育委員会資料
鳥獣保護区：当該地域に鳥獣保護区として指定された区域はない
公共施設：学校(小・中・高)、消防署、警察署等公共施設

ルート帯の概要		案① 区間延長を極力短くしたバイパス案	案② 現道改良案 (現状の国道493号の防災対策や道路幅を拡幅する案)	
整備目標		延長 約9km 80km/hで走行できる自動車専用道路(2車線)	延長 約15km 40km/hで走行できる一般道路(2車線)	
道路整備による効果 (道路整備の目的)	地震発生時	国道493号の代わりとして利用できる	現状の国道493号を改良するため、代わりとはならない	
	日常生活	豪雨時に利用できるか？ (通行止めの影響)	豪雨時に利用できる	豪雨時に利用できる (信頼性は、案①より劣る)
		安全で安心な利用ができるか？ (落石、急カーブ等の影響)	安全で安心な利用ができる	安全で安心な利用ができる (信頼性は、案①より劣る)
	目的地までの移動	市場までの輸送時間や商品の品質確保は？ (急カーブや幅員狭小等の影響)	輸送時間の短縮や商品の品質確保が見込まれる	輸送時間の短縮や商品の品質確保が見込まれる (案①より劣る)
観光地への立寄箇所や滞在時間の増加は？ (広域的な時間短縮等)		時間短縮により、立寄箇所や滞在時間の増加が見込まれる	時間短縮により、立寄箇所や滞在時間の増加が見込まれる (案①より劣る)	
環境配慮 (環境配慮の目的)	自然環境	動物への影響は？	影響の可能性はあるが小さい	
		植物への影響は？	影響の可能性はあるが小さい	
	生活環境	家屋などへの影響は？	大きい	小さい
		大気質及び騒音等の影響は？	影響の可能性はあるが小さい	影響の可能性はあるが小さい
その他	事業期間	建設に要する期間は？	長い	
	経済性	建設に要する費用は？	約550～600億円	約250～300億円

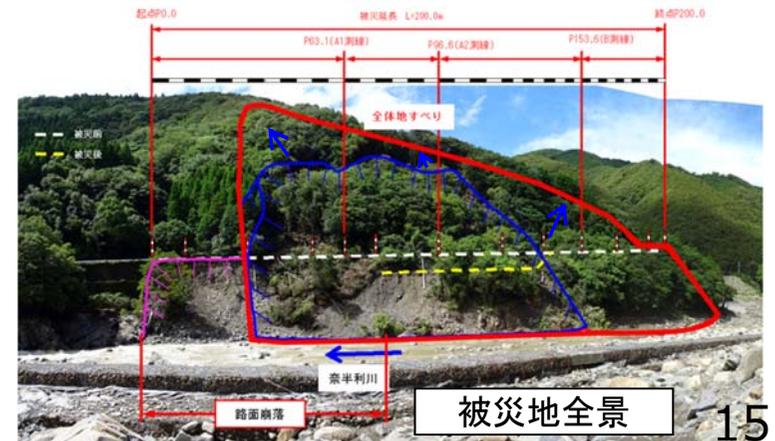
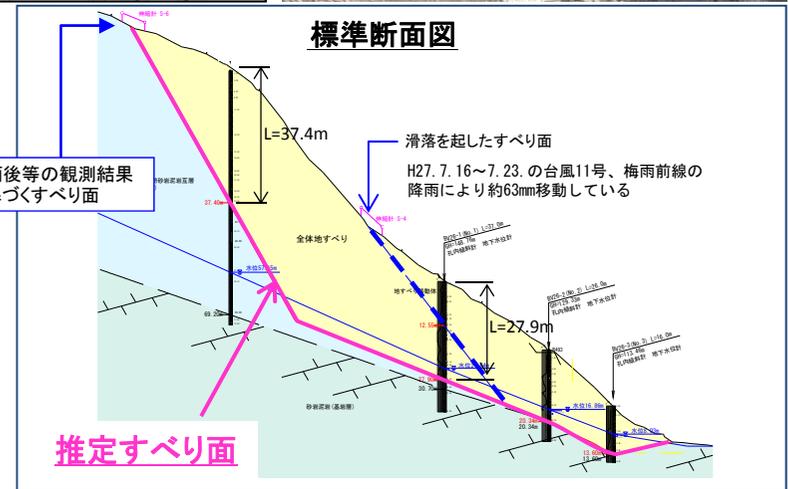
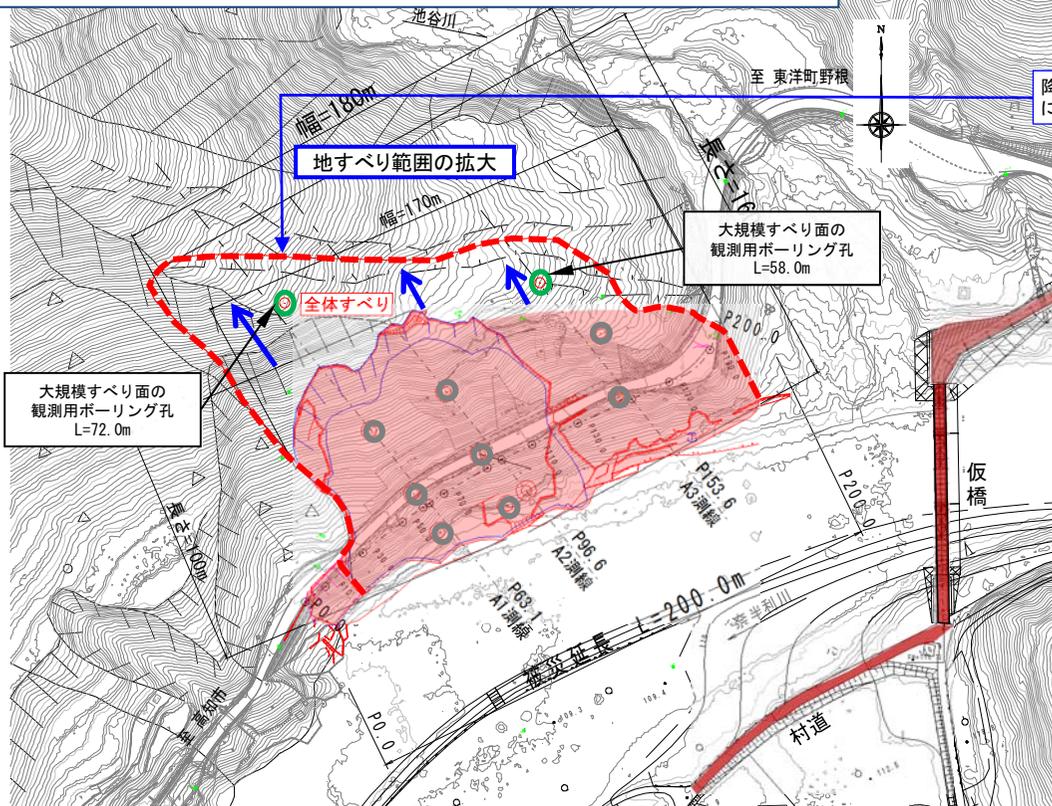
※整備目標は、今後の詳細なルート・構造等の検討により変更となる場合があります。
※自然環境及び生活環境への配慮 ⇒ 今後の詳細なルート・構造等の検討段階で詳細な調査を実施し、影響の回避及び低減を図ります。また、整備にあたっては、自然環境及び生活環境に配慮した対策工を実施します。

4. 北川村小島地区の被災状況

4-1. 北川村小島地区の被災状況

○平成26年 8月 災害発生
 被災原因： 雨量 413 mm/日、67 mm/hr
 被災規模： L=200m、長さ=100m
 第三者などの人的被害なし。
 他の崩壊箇所もあり平鍋地域(27名)が孤立
 仮橋による迂回路設置 (H26.11.8) までの約3ヶ月間通行止め

- 平成26年 9月 ボーリング調査を開始
- 平成26年11月 当初被災した地すべり上部に新たな亀裂が発生
 ⇒ 被災規模 L=200m、長さ=160m
- 平成26年12月 土木研究所による現地調査⇒追加ボーリングの指示あり
- 平成27年 7月 豪雨により、すべり面を推定
- 平成28年 1月 国土交通省水管理・国土保全局防災課と災害査定の前協議を開始

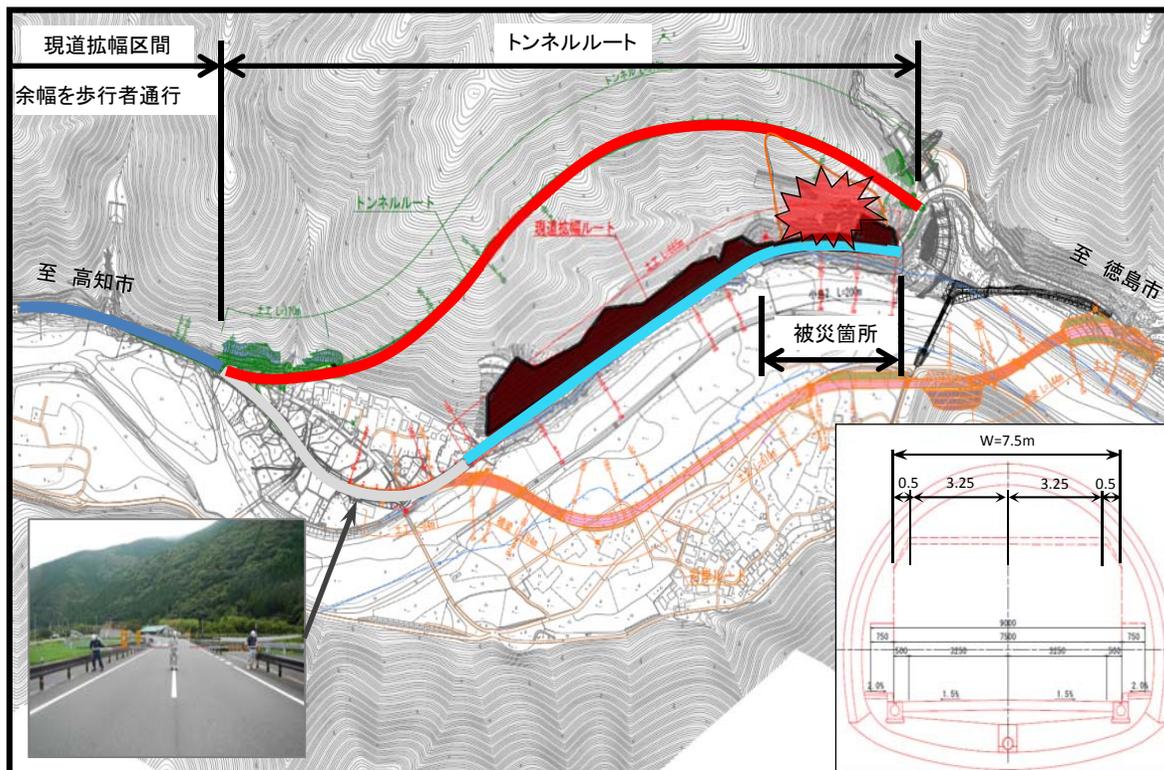


◇災害関連事業を活用した事業要望を検討中

・「災害復旧事業」は、被災した施設を原形復旧（従前の効用の復旧も可能と）するが・・・

- ・「原形復旧」だけでは、事業の効果を発揮する区間・箇所が限定される
- ・「原形復旧」だけでは、再度の災害が生じる可能性がある区間や箇所を放置するリスクがある
- ・「原形復旧」は、次の改修時に工事に手戻りが生じることがある

災害関連事業



5. 今後の方針

5-1. 防災評価の必要性

- 平成26年8月の台風11号豪雨で、北川村小島地区を始め国道493号の複数の箇所、法面崩壊が発生した。
- 小島地区における崩壊では、当時、大規模な深層に及ぶ崩壊であることが想定された。
- 同様な規模の崩壊危険箇所が、国道493号沿線に存在する場合、阿南安芸自動車道・野根～安倉間等の検討に影響があるため、国道493号沿線の防災上の課題等を再度整理・評価することとした。

出典：高知新聞 平成26年8月11日



5-2. 防災評価を踏まえた今後の方向性

- 防災評価は、落石に加えて、小島地区のように大規模な岩盤地すべりが発生する恐れがある箇所が国道493号の未事業化区間沿線に存在するかといった視点で評価を行う。
- 「落石」については現地点検を実施。
- 「地すべり」については地形判読後、大規模な岩盤地すべり箇所を確認するために詳細調査を実施。
- 防災評価の結果を踏まえルート帯の提案を行う。

【落石危険箇所】

平成8年防災点検をベースに再点検

再点検結果を踏まえ、
必要な防災対策を検討

【地すべり危険箇所】

地形図等を用いた地形判読(R493全体:和田～安倉～野根)

R493現道の防災対策に影響する地滑り箇所を特定

小島地区で発生したような大規模な岩盤地すべり箇所を確認
するための詳細調査を実施中(ボーリング調査、傾斜計観測等)

詳細調査結果を踏まえ、必要な防災対策を検討

H28.12月現在

・国道493号防災評価のまとめ(報告) ……現道における落石・大規模岩盤地滑り危険箇所の分布等
・現道の防災対策を考慮したルート帯案を再検討のうえ提案

地域への意見聴取

小委員会を経て対応方針を決定